

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	監査論A（AuditingA）		
ナンバリングコード	E30611	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 応用レベル 会計ファイナンス
単位数	2	配当学年 / 開講期	3 年 / 前期
必修・選択区分	選択:経営経済学部 コース選択必修:情報メディア学科 情報コミュコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E008701	クラス名	-
担当教員名	工藤 順一		
履修上の注意、 履修条件	受講にあたって前提条件となる知識は、特にありませんが、できれば財務諸表論(2年次に履修)の知識があれば、理解が深まると思います。授業時の座席については、こちらから指定します。なお、黒板が見えにくい・声が聴きにくいといった学生は、前の方の座席を空けていますので自由に座ってください。		
教科書	レジュメを配布		
参考文献及び指定図書	盛田良久著「まなびの入門監査論」(中央経済者)、監査論テキスト 第6版 山浦久司著 中央経済社		
関連科目	財務諸表論 会社法 原価計算論 経営学入門		

○基本情報		
授業の目的	公務員を目指す人や企業で経理をされる方にとって監査はとても有用です。授業では、「監査基準」を使いますので、最新の監査基準をお持ちください。監査基準は、インターネット等でも検索可能です。 監査論は公認会計士試験の科目でもあります。監査論の背景にある考え方をしっかり理解するようにしてください。上場会社などは、会社法や金融商品取引法の規定により、監査は必ず受けなければならないとされています。また、国や県・市に就職されると、仕事の上で必ず内部監査や外部監査を受けることになります。補助金を受ける大企業の場合も同様です。監査の背景にある基本的な考え方をしっかり理解するようにしてください。	
授業の概要	授業は、レジュメを最初に配布し、レジュメに沿って進めていきます。専門用語は、最初はわかりにくいので、県内の企業の上場等の新聞記事を見ながら、身近な話題から進めていきたいと思います。また、大企業の株主総会の時期には、株主総会のDVDを見ながら、大企業の株主総会の雰囲気味わっていただきたいと思います。	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3)アクティブ・ラーニング	「プレゼンテーション」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ:地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
実務経験のある教員による授業科目	工藤順一氏は、大分県内の100社以上の大分県の経営革新計画の事業計画書作成を支援してきました。また、シニアIMとして多くの企業の創業支援実績あり。多くの企業の事業計画書作成等に携わってきた経験を、皆さんの専門的・実践的な知識の習得に生かしたいと考えます。会社の内部監査だけでなく、会計検査院や国税庁の検査・監査に実際に立ち会った経験を活かし、監査人の立場からだけでなく、監査を受ける会社側の対応についても説明していこうと考えます。	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	新聞記事では、監査に関する記事をよく見かけます。多くは企業や公務員の粉飾決算等の記事です。それに伴う役員交代や株価の下落の記事も監査とつながっています。まずは関心を持ちましょう。	20点		10点
【知識・理解】	監査論の知識は、公認会計士だけでなく、官庁や企業においても役に立ちます。監査論を理解するためには会社のことを理解するとともに、なぜ監査が必要かということを理解する必要がありますからです。	10点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】	授業の中で、レポートによって、監査論で学んだ考え方を表現していただきます。同じ内容であっても、表現方法によっては伝わらないこともあります。いろいろな表現方法を学習しましょう。	10点	10点	10点
【思考・判断・創造】	常に、なぜ?という考え方を身につけてください。知識をそのまま覚えることも大切ですが、なぜそうになっているのかを考えて学習しましょう。	10点	10点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
授業中に出す課題レポート等により授業への取り組み姿勢や意欲を評価するとともに、期末試験により、監査の基礎的な知識の習得を評価します。期末試験により、達成水準の目安は以下の通りです。Sレベル:達成目標を満たしている。Aレベル:ほぼ満たしている。Bレベル:なんとか満たしている。Cレベル:一部分満たしている。 授業によっては、レポートを提出していただきます。レポートは、テーマに沿って、自分の言葉で書いてください。量と質の両面から評価します。提出していただいたレポートは、次の授業の際に、講評や追加コメントをいたします。期末試験は、授業の中で学んだ内容について、幅広く出す予定です。14回目の授業の中で、期末試験についても説明しますので、必ず出席してください。

○その他
学習相談は、授業の合間や研究室で常時おこなっています。わかりにくいことがある場合や疑問に思ったことがある場合は、いつでも研究室に来てください。

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科目名 担当教員	監査論A（AuditingA） 工藤 順一	授業コード	E008701
学修内容					
1. 会計監査のフレームワーク					
監査とは何か、公認会計士試験における監査関係について説明します。次に、財務諸表論と監査論との関係や財務諸表監査の意義と目的についても学習します。最後に、会計監査の限界についても学習します。					
予習	監査論を学ぶに当たり、2年時に履修した財務諸表論のテキストを出して、会計の目的について復習しましよ				約2時間
復習	財務諸表論と監査論のつながりについて、配布したレジュメで復習しましょう。				約2時間
2. 財務諸表監査の制度					
財務諸表とは何かを学習し、財務諸表の役割を復習します。その中で、監査の位置づけを学びます。監査という言葉は、ラテン語の、オーディオ(audio)＝オーディション(audition)、つまり「聴く」というラテン語から派生しています。監査の起源は、「聴く」ということにあったようですから、会計帳簿を前にして、会計の担当者に根掘り葉掘り問い詰める「監査人」の姿が浮かびます。公認会計士による財務諸表の監査は、現実には、企業外部の利害関係者保護を目的とした法律に基づく制度として実施されます。					
予習	日産自動車株のゴーン会長に関する新聞記事等監査関係の資料を見ておきましょう。				約2時間
復習	大企業の会長が、なぜ会長職を追われたかについて、考えてみましょう。				約2時間
3. 監査の種類と分類					
監査の種類と、分類について説明します。監査論では、公認会計士が実施する財務諸表監査と監査役が実施する監査役監査、そして企業の従業員である内部監査人が実施する内部監査という3種類の監査について学習します。また、監査は法律の規定の有無によって、法定監査と任意監査に分けられますのでこのような監査の分類についても説明いたします					
予習	新聞記事の中から、監査、利害関係者等に関わる記事を拾い出してみましょう。				約2時間
復習	会社法の役割は何かを整理して、ノートに書いてみましょう				約2時間
4. 財務諸表監査と不正事件との関係					
財務諸表監査展は、多くの不正事件により、改訂を繰り返して発展してきました。そこで、歴史に残るいくつかの不正事件を取り上げて、これらの不正事件と年の財務諸表監査の発展との関係について説明いたします。不正事件としては、1938年のマッケンソン&ロビンズ事件や1965年の山陽特殊製鋼事件、2005年のカネボウ事件、2006年のライブドア事件等を扱います。					
予習	企業会計基準について、財務諸表論のテキストから拾い出しましょう。				約2時間
復習	企業会計基準と税法、会社法の関係について、レジュメで復習しましょう。				約2時間
5. 財務諸表監査の目的と必要性					
財務諸表監査が必要となる理論的な背景と財務諸表監査の必要性やその目的を、監査基準第一監査の目的に沿って学習します。また、経営者と監査人との責任の区別(二重責任の原則)についても学びます。監査基準第一監査の目的から、財務諸表監査の目的(意義)を見ていきましょう。監査の目的については、監査論A・Bの授業を通じてとても大切なところですから、しっかり意義を覚えましょう。また、財務諸表監査の必要性についても、会社設立、会社の資金調達(株式の発行等)と密接にかかわってきますので、基礎的な用語をしっかりと学習しましょう。					
予習	新聞記事の中から、会社に関わる記事を拾い出してみましょう。				約2時間
復習	会社設立の意義と監査の必要性について、レジュメに基づいて復習しましょう。				約2時間
6. 監査基準					
「監査基準は、監査実務の中に慣習として発達したものの中から、一般に公正妥当と認められたところを昨日ようやくした原則であって、職業的監査人は、財務諸表の監査を行うに当り、法令によって強制されなくても常にこれを遵守しなければならない。」という企業会計審議会が公表する監査基準の設定前文について説明いたします。この中から、監査基準の必要性や監査基準の性質そして監査基準による効果や期待ギャップの解消問題について学習します。					
予習	会社法について、監査人に関する規定を事前に読んできてください。				約2時間
復習	あなたが、監査人の適格性として一番大切と思うことは何かを整理してみましょう。				約2時間
7. 監査人					
財務諸表監査の目的として、監査人が意見を表明することで財務諸表が社会一般の利害関係者から信頼されるためには、常に一定以上の監査の証明の水準を維持した監査が実施されることを制度的に担保する必要があります。そのためには、監査人としての適格性要件を定め、監査人を監査業務の担い手として適切なものに限定する必要があります。今回は、その監査人の適格性要件と職業的義務を学習します。					
予習	公認会計士や弁護士・税理は職業上、どのような注意を払うべきかを考えてきてください。				約2時間
復習	資格を持って仕事をする上で、業務上持つべき注意について復習しておきましょう。				約2時間
8. 監査人の正当な注意と職業的専門家としての懐疑心					
一般基準3に掲げられている監査人の正当な注意や職業的懐疑心について学習します。また、正当な注意によって保つべき監査の品質管理も学びます。					
予習	財務諸表監査の必要性について整理してきてください。				約2時間
復習	試験の中で、すぐに答えられなかった問題については、復習をしておきましょう。				約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	監査論A（AuditingA） 工藤 順一	授業コード	E008701
学修内容				
9. 監査の実施				
監査実施論では、財務諸表監査は実際にはどのようにして実施されているのか、貸借対照表において重点的に立証すべき監査要点とは何か等を学習していきます。貸借対照表は、複数の財務諸表項目で構成されており、それが正しいかどうかについて直接立証することは困難であるため、貸借対照表の各勘定科目について、一つ一つ適正性について立証していかなければならない。				
予習	新聞記事の中から、監査や公認会計士に関する記事を拾い出しましょう。			約2時間
復習	公認会計士試験の試験科目について洗い出しましょう。会計学、監査論、企業法等についての理解を深めてく			約2時間
10. 監査証拠				
監査証拠の証明力を学びます。証明力は、企業から独立した情報源から入手した場合には、より強くなります。企業内部で作成される監査証拠の証明力は、情報の作成と管理に関する内部統制等、関連する内部統制が有効な場合には、より強くなります。また、監査人が直接入手した監査証拠(例えば、内部統制の運用について観察により入手した監査証拠)は、間接的に又は推論に基づいて入手する監査証拠(例えば、内部統制の運用について質問により入手した証拠)よりも、証明力が強くなります。こうした監査証拠と証明力の関係を学習します。				
予習	裁判では証拠が重要です。裁判と証拠の関係について刑事事件を例に挙げて考えてみましょう。			約2時間
復習	就職活動上、意見表明するに当たり十分かつ適正な証拠とは、何かを考えてみましょう。			約2時間
11. 監査計画				
リスクアプローチの下では、各リスクの評価と監査手続、監査証拠の評価並びに意見の形成との間の相関性が一層強くなり、この間の一体性を維持し、監査業務の適切な管理をするためには、監査計画は極めて重要である。今回は、監査計画の意義と構成、監査計画の修正等について学習する。				
予習	監査を実施するに当たり、どのようなプロセスを通るのか、就職活動に照らして考えてみましょう。			約2時間
復習	実施する上で大切なことは、投資と効果の両方を追求するという意味を考えてきましょう。			約2時間
12. 試査と内部統制				
監査の対象は、通常大企業であり、限られた時間や人員によって行われ、実施の内容は多岐に渡る。このため、監査は原則として試査によって行われる。今回は、精査と試査、監査証拠をを入手するまでのプロセスについて学習し、意見を形成するプロセスを学びます				
予習	水道水に例えて、水源で沸いた水が、いかにして自宅の水道に届くかを、順を追って考えてみましょう。			約2時間
復習	就職活動上、企業の固有のリスクとは何かを考えてきましょう。			約2時間
13. リスクアプローチ				
財務諸表の監査では、監査を効果的かつ効率的に実施し、監査リスクを合理的に低い水準に抑えるために、リスク・アプローチに基づく監査の実施が求められています。監査リスクを合理的に低い水準に抑えるために、企業における固有のリスクを把握し、財務諸表における虚偽表示のリスクを評価し、内部統制があるかどうか(統制のリスク)を把握したうえで、発見上のリスクの水準を決定します。こうした監査実施上のリスクについて学習します。				
予習	リスクアプローチは何かを復習してきてください。			約2時間
復習	監査計画を立てる上で、効率と効果の関係についてまとめてみましょう。			約2時間
14. 他の監査人の利用				
監査人は、他の監査人によって行われた監査の結果を利用する場合には、当該他の監査人によって監査された財務諸表等の重要性、及び他の監査人の品質管理の状況等に基づく信頼性の程度を勘案して、他の監査人の実施した監査の結果を利用する程度及び方法を決定しなければならない。今回は、他の監査人の意義等を学びます。				
予習	裁判では証拠が重要です。弁護士が他の弁護士とどう協力するかを考えてみましょう。			約2時間
復習	就職活動上、他の学生の調査資料を使用する上での注意点を整理しましょう。			約2時間
15. 総括				
これまでの14回の授業の総括を行います。1回から14回までの授業を振り返りながら、重要なポイントを再度解説します。また、期末試験の試験範囲や試験の出し方についても説明しますので欠席しないようにしましょう。				
予習	1回から14回までの資料を再度見直して、重要な点を読んできましょう。			約2時間
復習	次週の期末試験に向けて、専門用語の整理等資料整理を行っておきましょう。			約2時間
16. 期末試験				
すべての講義に関して総復習の意味でのテストを行います。				
予習	15回の授業の中で指摘した内容をよく読んで理解し、覚えてきましょう。			
復習	試験の中で、解答が書けなかった点について、早めに復習をしておきましょう。			